



引きこもりなどの悩みや生活困窮者に寄り添う

魚崎地区に何でも相談できる地域拠点  
「うおざきご近助さん」がオープン！



2019年6月、うおざきご近助さん実行委員会\*1は神戸市東灘区魚崎地区に、行政では受け皿のない悩みを抱えた住民が何でも気軽に相談できる地域拠点「うおざきご近助さん」をオープンしました。この取り組みは、生活科学研究科 野村恭代准教授が北海道網走郡で取り組んだ「津別町プロジェクト」を都市部で実践するものになります。同プロジェクトは、今年度日本居住福祉学会居住福祉賞を受賞しました。

※1 地域住民のボランティア、障害者地域生活支援センターなど地域の関係機関とで構成された組織

【背景】

近年、社会福祉をめぐる施策は、地域包括ケアシステムの推進や身近な場所での相談支援体制の構築など、地域における「支え合い」や「共助」を基調とした施策に比重が置かれるようになってきています。この一連の潮流には、少子高齢化や人口減少などにみられるような激しい人口構造の変化を背景として、引きこもりや高齢者の孤立など福祉課題の多様化、深刻化、潜在化が顕著となり、従来の福祉システムでは対応できなくなりつつあるという実態があります。

野村准教授のグループは、2015年より「人口減少社会を想定した生活困窮者等への地域相互支援型自治体推進モデルの構築」をテーマに、北海道網走郡津別町\*2において、「地域拠点」をつくる試みを行ってきました。「地域拠点」は、地域住民にとって身近な場所となる中学校区等の日常生活圏域を基本ユニット（地域を基盤としたソーシャルワークの拠点）として、対象者を選別することなく相談を受けることができる場です。現代社会では、問題を抱えていてもどこに相談に行けばいいのかわからない、専門機関に相談に行くのもためらわれるなど、解決の糸口を見つけれない人が多く見受けられます。「地域拠点」は身近な窓口となり、行政、社会福祉協議会、専門職と地域住民側の中核的担い手が協働し、「支え合い」による総合相談体制を展開し、問題解決にあたっていきます。

これまで地方において取り組んできたこのしくみを、都市部でも実践するため、神戸市東灘区魚崎地区に地域拠点をオープンしました。

※2 2019年3月末現在人口4,662人（2,323世帯）。75歳以上の高齢者が人口の約40%を占め、2040年に想定される日本の人口構造とほぼ同じである。



地域拠点となるカフェ  
「はじめのいっぽ」

【地域拠点の支援機能】

- ①早期発見・早期対応による予防的支援
- ②支え合い活動による課題解決と見守り
- ③地域住民と専門職の協働による課題解決 等

### 【地域拠点での相談者への対応について】

カフェに寄るように気軽に立ち寄っていただき、世間話をするように悩み事を伺います。個別相談を希望される方には担い手（ボランティア）と専門職と一緒に個別に話を伺います。安心してお話いただけるよう、まず「ご近助さん」の取り組みや守秘義務などを相談者に説明します。相談内容により、地域で対応できる方法を考えたり（地域での見守り、個別訪問など）、地域での解決が困難な場合は各相談機関に繋がったり、と解決方法をともに考えます。

### 【地域拠点について】

活動場所：カフェ「はじめてのいっぽ」

神戸市東灘区魚崎北町4丁目3-15

活動日時：毎月第2・4水曜日 10:00~12:00

主催：うおざきご近助さん実行委員会



### ★研究者よりひとこと★

日々、生活を送っていると、公的な支援が必要になることもあれば、ご近所での見守りや支えあいがあれば、地域で元気に生活することのできる方もたくさんおられます。“みんなが、つながり・かかわり・ささえあえる”、そんな地域を目指して、身近な相談窓口（地域拠点）を開設しました。困っていることがある・なしにかかわらず、気軽に拠点に立ち寄っていただければと思います。



野村 恭代 准教授

### 【本件に関するお問合せ先】

大阪市立大学広報課 担当：三苦（みとま）

TEL：06-6605-3411

E-mail：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp